

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)
 A: 十分達成できている
 B: おおむね達成できている
 C: やや不十分である
 D: 不十分である

学校名	唐津市立馬渡小中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の更なる効率化を図り、職員の時間外在校等時間45時間以内を厳守するための手立てを取り、意識の向上を図っていく。 ・目的意識をもって学習に取り組む児童生徒を育むことができた。今後は自ら学びを調整する力を高められるような手立てや学習過程について検討を進めている。 ・自分や友達の良さ、自分の夢について語る事ができる児童生徒の育成を進めることができた。人権や愛郷心等、更なる心の教育を進めていく。
2 学校教育目標	育てよう自分らしさ、認めよう仲間の良さ、つなげよう馬渡の力 ~ 自分を愛し、周りの人を愛し、島を愛する児童生徒に ~

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①学力の向上)「個別最適な学び」「協働的な学び」の推進とともに、児童生徒の自己調整力を高める授業づくりを通して、主体的に学びに向かう力の育成を目指す。 ②心の教育)人権・同和教育や道徳教育、交流・体験活動の充実を柱にしたUD教育の充実 ③健康・体づくり)望ましい生活習慣・運動習慣の定着と食育の推進 ④業務改善)業務の効率化、ICT活用、きめ細かな指導の充実 ⑤小中連携)小中一貫教育と開発的生徒指導の実践(出番一役割一承認)
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○児童生徒の主体的な学習を促すための単元づくり	○単元の目標を見据え、自身で目標達成のための学習方法を考え、粘り強く努力することができた児童生徒の割合80%以上	・学級規模と児童生徒の実態に基づいた授業検討会を月1回をめぐりに行う。 ・全教員が児童生徒の自己調整力向上を意識し、研究授業を年1回行う。	A	・授業検討会を毎月2回行い、指導力の向上を行うことができた。年間を通じ、全教員が児童生徒の自己調整力向上を意識した研究授業を行うことができた。全児童生徒があらかじめ学習に取り組むとアンケートで回答している。	A	・唐津の学びスタイルを受けての馬渡小中の自己調整学習だと理解する。 ・自己調整学習は実現するのは難しいようだから今後も続けて取り組んでもらいたい。	学習文化部	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒80%以上 ○担任が、道徳の授業を年1回以上保護者や地域に公開する。	・道徳の授業を中心に心の教育を実践する。 ・「唐津市教育の日」に、全学年「ふれあい道徳」を行い、保護者・地域参加型の授業を実施する。	A	・道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒100%を達成した。 ・保護者や地域の方が参画したふれあい道徳を実施した。また、SOを活用したストレスマネジメント講座を小中学生の学級で実施した。	A	・ふれあい道徳と指導内容充実への取り組みは良いことだと感じる。これらの取り組みを今後も後押ししたい。	児童生徒育成部	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員80%以上 ○生徒会を中心として、人権活動を年1回以上行う。	・週1回の連絡会で情報交換を行う。 ・いじめの発覚または疑われる事案発生直後、いじめ対策委員会を開催する。 ・人権週間の設定と人権集会の開催。	A	・いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員100%を達成した。 ・人権週間に人権教室を実施し、外部講師を招聘して小中それぞれの発達段階に応じた講話を行った。	A	・今年度の取り組みは良いことだと感じる。これらの取り組みを今後も後押ししたい。 ・人権学習は発達段階や年齢に応じて行ってほしい。	児童生徒育成部	
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・夢や目標について目標の樹、夢プレゼン、マナー検定を通し、自ら将来の夢や目標について考えさせる時間を設ける。	・夢や目標について目標の樹、夢プレゼン、マナー検定を通し、自ら将来の夢や目標について考えさせる時間を設ける。	A	・「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童生徒92.3%。来年度も児童生徒への支援を充実させていきたい。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒92.3%と中間評価から大幅に上がった。担任承認の場面を意図的に設定した効果があった。	A	・無記名アンケートなので対応は難しいだろうが、1名が「あまり認めてもらえていない」と感じていることが気になる。今後も意図的に関係づくりを進めてもらいたい。	児童生徒育成部
	○自分や友達の良さを見つけ、それを発表する活動。	○自分や友達の良さを認める肯定的な回答をした児童生徒80%以上。	・「いいねカード」を活用し自分や友達の良さを見つけ、発表する活動をクラスの中で行い、徐々に発表の場を学校全体に広げていく。	・「いいねカード」を活用し自分や友達の良さを見つけ、発表する活動をクラスの中で行い、徐々に発表の場を学校全体に広げていく。	A	・自分や友達の良さを認める肯定的な回答をした児童生徒100%を達成した。「いいねカード」の活用場面を増やし、全校児童生徒の前で担任が1人の子の良さを披露する「担任承認」の時間を設定したことが成功した。次年度も継続したい。	A	・肯定的な回答が100%とは素晴らしい。 ・担任が全校の児童生徒の前で承認したり「いいねカード」を渡したりする取り組みは続けてほしい。	児童生徒育成部
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「安全に関する資質・能力の育成」	①授業以外で運動を行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%以上 ②規則正しく生活を送っている児童生90%以上 ③児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	①週1回のレクリエーションを全小学生対象に実施する。また、小中学生全員での合同レクリエーションを月1回実施する。運動部活動を平日に4日、休日1日実施する。 ②学校生活アンケートを月1回実施する。 ③安全指導を月に1回実施する。	B	①1日60分以上体を動かしているのは69%であった。組織的な継続指導を行っていく。 ②規則正しい習慣が身につけていると答えた児童生徒は77%であり、改善傾向が見られる。 ③本年度の児童生徒の交通事故は0であった。	A	・休休みなど職員が率先して子ども達と活動していることが素晴らしい。中学校の運動系部活動等以外は運動時間が限られるので今後も取り組みを続けてほしい。	保体部	
	○「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○「健康に良い食事をしている」と考える児童生徒90%以上 ○児童生徒の朝食摂取率80%	○月1回の給食便りや給食集会で食事に関する啓発活動を児童生徒及び家庭に向けて行う。 ○朝食摂取の啓発週間を設ける。	A	・給食集会などの具体的取組を行い、栄養やバランスの良い食事への意識が高まり「健康に良い食事をしている」と考える児童生徒は85%に増加した。 ・児童生徒の朝食摂取率は90%を超えている。	A	・「誕生日メニュー」や「給食選挙」など自校調理の特長を生かした食に対する取り組みを続けてほしい。	保体部	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・小中協働による業務を推進する。 ・週1回各自が設定する定時退勤日やきめられた部活動休業日を確実に実施する。 ・部活動指導に輪番を取り入れ、年休取得をすすめる。	B	・継続的に業務効率化へ取り組み、時間外在校時間は6月と11月の比較では全体で4%減少している(R6は30%減)。時間外在校時間平均29時間、月45時間以上の職員は11%。4~11月までの平均年休取得日数は10日、年度内の目標達成を目指す。	B	・熱心な職員ほど時間外在校時間が増える傾向にあると思うが、そうならないように指導を続けてほしい。 ・時間外在校時間45時間以内の職員が8割を超えていることは取り組みの成果であると感じる	管理職	
	○校務用端末やタブレットPCを活用した業務効率の改善や教育の個別最適化の推進	○意識調査において、ICTを授業や評価に活用していると回答する教員90%以上	・ICTを効率的・効果的に活用するための研修を行う。	・ICTを効率的・効果的に活用するための研修を行う。	A	・100%の職員がICT機器を積極的に活用している。活用推進への職員の取り組みが成功し、児童生徒が「タイピング大会」やアプリを活用したクイズ大会を企画するなど、校内で新たな活用の場面が広がった。	A	・他の学校との交流も含めICTの活用が進んでいると感じる。今の取り組みを応援したい。	管理職
●特別支援教育の充実	○ユニバーサルデザインの視点にたった教室環境づくり及び授業実践の継続	○ユニバーサルデザインの視点にたった授業実践を受けた児童生徒のうち、「授業が分かりやすい」と答える児童生徒の割合80%以上	・教室環境の刺激物の撤去や1単位時間の学習過程の提示を行う。特別支援COを中心に特別支援の手法を通常学級にも取り入れる。	A	・教室環内部の刺激物撤去、黒板付近は掲示物を付けないなど、学習環境を整えることができた。 ・1単位時間の学習過程の提示とラーニングマウンテンやルーブリックの活用を行い、児童生徒が見通しをもった学習を行うことができた。	A	・今年度の取り組みは良いことだと感じる。これらの取り組みを今後も後押ししたい。	学習文化部	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○連携(小中・地域)	○小中学校職員の協働による教育実践	○中学校教員による授業や学活の時間等を好意的に受け止める児童の割合が80%以上を維持する。	・中学校教員による乗り入れ授業と小学校副担任制の充実を図る。	A	・中学校教員による高学年への乗り入れ授業を全児童・保護者ともに肯定的に受け止めており、学力向上に寄与したと考えられる。 ・小学校担任と中学校からの副担任で協力して授業作りを行い、指導の充実が図られた。	A	・小中の連携により取り組みがとてとても素晴らしい。ぜひ今後も続けてもらいたい。	学習文化部
	○島の様々な資源を活用した教育活動の実践	○学校行事や授業への島民の参観や参加、ゲストティーチャーとしての参加回数が年に20回以上	・学校だよりや、「はなまる連絡帳」で行事前に告知を行い、授業参観に来てもらう。 ・島民に、ゲストティーチャー(GT)や授業の参加者としての来校を促す。	A	・授業で、島民の方に意見をいただくなど、地域の教育力を積極的に活用できた。GTの活用・参観は20回以上を数え、地域と共にある学校づくりが推進された。 ・行事案内の島内全戸配布等を行い、参加を促すことで、多くの参観者を募ることができた。来校者・参加者1030人(うち交流学習482人)2月10日現在。	A	・イベントの案内等を細やかに島内に案内していただきとても有難かった。学校の動きがよくわかった。今後も続けてもらいたい。	学習文化部 保体部

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ①主体的に学びに向かう力の育成を目指し、児童生徒の自己調整力を高める授業づくりをおこなった。全職員が研究授業を行い好事例の共有を図り指導力の向上につなげた結果、主体的に学習に取り組む児童生徒が増加している。次年度も継続し、指導方法の深化・向上をめざす。 ②将来の夢や希望をもち、自他のよさを認め、いじめをなくす気持ちをもつ児童生徒が育っている。道徳の授業を充実させ、児童生徒をほめ、組織的に児童生徒の心の状態に目配りする体制が効果を上げている。 ③運動習慣の定着に課題が残る。今後、継続的な取り組みを学校全体で行っていく必要がある。 ④学習指導、分業業務面で職員のICT利活用の意識が高まり、業務の効率化が図られ、時間外在校時間が縮減した。継続的に業務の効率化に取り組む。 ⑤中学校職員が行う小学生へ教科指導については、学力向上が図られ、児童と保護者からも受け止めもよい。本校の特長として発展的に継続させたい。
----------------	---